二松學舍大学 東アジア学術総合研究所 共同研究プロジェクト

日本文学の「女性性」

第6回公開ワークショップ

2009

2月14日(土)

二松學舍大学九段校舎 11階大会議室

午後1時

増田裕美子(二松學舍大学)

女の嫉妬、男の嫉妬
—漱石作品を中心に

午後3時

中川成美(立命館大学)

顔貌性の神話
—ジェンダー偏差と暴力

※裏面に発表要旨があります

※事前申し込みは必要ございません。奮ってご参加ください。

※発表要旨、会場案内図は裏面をご覧ください。

二松學舍大學

問い合せ先: 二松學舍大学東アジア学術総合研究所
〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16 Tel: 03-3261-1354 Fax: 03-3261-1368

二松學舍大学東アジア学術総合研究所共同研究プロジェクト

日本文学の「女性性」

第6回公開ワークショップ

■増田裕美子　女の嫉妬、男の嫉妬—漱石作品を中心に

「恪気は女のつつしむところ、疝気は男の苦しむところ」と、落語の枕にもあるように、嫉妬は女の専売特許のように見なされてきた。とりわけ『源氏物語』に登場する六条御息所は嫉妬する女の典型として、漱石の『虞美人草』のヒロイン藤尾の造形にも大きく関わっていることはすでに論じた（「紫の女—『虞美人草』をめぐって」『比較文學研究』第91号所収）。しかしながら、その後の漱石作品—『彼岸過迄』『行人』『こころ』など—では、一人の女をめぐって二人の男が対立し、男が自らの嫉妬の感情を語っている。

西洋文学では、嫉妬する男たちの系譜は古くはホメロスの『イリアス』にまで遡る。そこで語られるトロイア戦争は、ギリシアのスパルタ王メネラオスの妻で美女の誉れ高いヘレネをトロイアの王子パリスが奪い去ったことに端を発し、寝取られ亭主のメネラオスの嫉妬心が引き起こした戦争であった。そして旧約聖書「創世記」の、イヴがアダムをそそのかして禁断の木の実を食べたために楽園を追放されたという挿話によって、女は背信行為を働くものという偏見が助長され、妻の不貞行為に悩む夫たちの物語が繰り返し語られるようになる。このように嫉妬という「緑色の目をした怪物」（『オセロウ』）は専ら男たちの心に巣くうのだが、その嫉妬心の根底にある差別的女性観を漱石も共有していたのだろうか。

本発表では主に『行人』を取り上げるが、一郎ではなく二郎に焦点を当てて論じる。また、それに関連して、『源氏物語』宇治十帖で語られる、浮舟をめぐる薫と匂宮の争いについても言及したい。

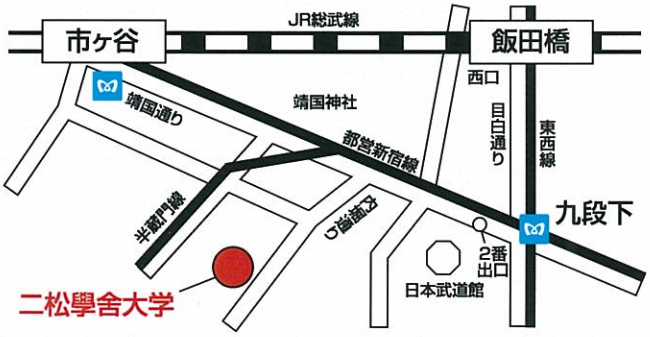
■中川成美　顔貌性の神話—ジェンダー偏差と暴力

顔貌が他者認知の最初のステップであり、そこに注がれる偏差のまなざしによってなされる分別は、ほぼ日常的な慣習行為といってよいだろう。しかし、顔や容貌、身体などによって細かく類別される基準については、流行であるとか、時代によって違うとかという曖昧な説明によって、ぼかされてきた。理由もなく「美貌」は肯定的な価値付けがなされ、「醜貌」はネガティブな評価にしか収斂しないような常套的な物語が、あらゆる場所で生成してきた。言わず語らずのうちに、ある地域的な、また民族的な、国家的な文脈によって形成された「美醜の彼岸」は、どのような経緯のなかで構成されているのであろうか?

文学に視点を据えてこの問題を考えてみると、これまで多くの「美醜」をめぐる物語が創造され、恋愛の重要な要素として機能している。が、仔細に見ると、その「美しさ」を表現する文学の語彙は思いのほかに貧しいのである。また、男女の「美しさ」を書き分ける表現もクリシェ化しているといえるほどに、僅かな価値の差異のなかで行使されているのである。

現代文学・文化が展開する大きな項目として、女性性に付与された男性からの過重な顔貌への価値判断がある。翻っていえば、男性性にも女性と等価に付された顔貌性への期待という要求項目によって、現代はどのような根底的病根を抱えているのであろうか。本発表では、この問題を笙野頼子、姫野かおるこ、鈴木由美子、中村うさぎ、桐野夏生などの現代女性作家、漫画家、またそのほかの大衆文化の諸現象から考えてみたい。そこには「美醜」より内面に人間の本質はあるといったような精神論や、加工を加えていくことの是非論などの単純な解釈を裏切っていくような、存在そのものをめぐる闘争的な認識の形が見えてくるのではないかと思っている。

○JR「市ヶ谷」「飯田橋」駅下車、徒歩15分
○地下鉄 東西線・半蔵門線・新宿線「九段下」駅下車、2番出口より徒歩8分



※会場には駐車場がありません。お車でのご来場はご遠慮ください。

NISHOGAKUSHA 二松學舍大學

問い合せ先: 二松學舍大学東アジア学術総合研究所
〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16
Tel: 03-3261-1354　Fax: 03-3261-1368